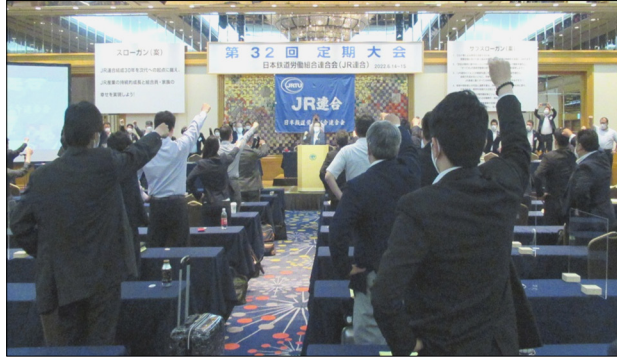




## JR連合 第32回定期大会開催!

JR連合発足30年の節目の年!  
JR産業の持続的成長と  
組合員・家族の幸せ実現に邁進!

荻山会長の団結カンパローで  
節目の年をスタート!



JR連合は、6月14～15日の2日間、東京都墨田区「東武ホテルレバント東京」において第32回定期大会を開催した。3年ぶりに2日形式での開催となった本大会には、代議員、来賓、傍聴者合わせて約170名が参加。熱心かつ真摯な討議が行われ、2022年度の運動方針を満場一致で決定した。



JR連合 荻山会長

冒頭、JR連合を代表して挨拶に立った荻山会長は「コロナの災禍は2年半に及ぶ。ゴールデンウィークには感染状況がやや落ち着きご利用も増えたが、本格回復には程遠く、こうした中で若手や中堅の離職が増加している。サービスマン、航空連合との3産別共闘や政治への連携を通じて国や政治に苦境を訴えてきたが、労使の自助努力だけでは限界があり、早期の需要回復のために、引き続き最大限の取り組みを展開する」と述べた。さらに「JR連合が結成30年を迎えた今、民主的労働運動の発展を通じて、社会的信頼と組合員の負担に込められた、JR労働

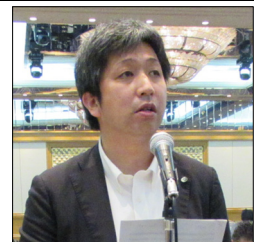
者を代表する産別組織をつくるという原点を忘れず、今後の持続的な成長のために社会変革に対応した変革が必要」との問題認識を示した上で「JR連合結成30年の節目を次代への起点に据えて新年度に臨む」との決意を強く示した。その後、本大会の主要課題5点「安全の確立」「組織の強化・拡大」「産業政策」「労働政策」「政治活動」について所感を述べた。その後、来賓として連合の芳野会長、交運労協の住野議長、JR連合国会議員懇談会の榎葉会長をはじめとする国会議員等から連帯と激励の挨拶を受けた。議事では、執行部より一般経過報告・決算報告、2022年度運動方針案及び予算案が提起されるとともに、森安交通政策部長の説明によりJR二島・貨物経営自立実現PTの最終提言「新しい『ヒト・モノ・ネットワーク』をつくる



JR連合 森安交通政策部長

これに対し、12名の代議員・特別代議員より、安全、組織拡大、政策活動・政治方針、男女平等参画、こくみん共済coopへの契約移転等に関して運動方針を補強する立場で発言があった。JR四国労組からは、石川代議員が①安全の確立、②政策課題解決、③広報活動について発言し、討論に参加。執行部が中間発表を行った後、政所事務局長より「現在は産業の大転換期にある。JR産業は斜陽産業ではなく、ポテンシャルを秘めている。その可能性を切り拓くべく、安

JR連合政策提言」が提起された。



石川代議員

全をはじめとする様々な課題に連携して取り組もう」との総括発言があり、全ての議案と大会宣言が満場一致で採択。荻山会長の「団結カンパロー」で大会を締めくくった。

### 石川代議員発言要旨

働く者の立場を考慮した実効性のある中身となるよう建設的な協議を続けていく決意である。②政策課題の解決に向けて、「3産別共同行動」を展開するJR連合の取り組みに感謝申し上げる。雇用金特例措置の9月末までの延長実現はその賜物。課題の解決に向けて引き続きの取り組みを要請する。JR二島・貨物経営自立実現PTの最終提言を活用し、中長期的な課題への対処に向けて取り組む。特に四国新幹線実現のための議論は加速させねばならない。そうした政策課題の解決には、政治の力が必要。推薦候補者の勝利に向けて取り組む。③活動の実績を示す広報活動は非常に重要。民主的労働運動が正しく認知されるために、単組においても活動を発展させていくが産別としても引き続き取り組みを要請する。

## 〈第26回参議院議員選挙〉 組織の総力を結集! 推薦候補 1名国政へ!

7月10日に投票票が行われた第26回参議院議員選挙において、ご支援ご尽力いただいた組合員や家族の皆さまに厚く御礼申し上げます。  
また、推薦候補の必勝に向けて献身的に奮闘されたすべての関係者に対しても心から感謝を申し上げます。

JR四国労組・グループ労組は、推薦候補の全員当選に向け取り組んだ結果、比例区推薦候補である川合孝典氏が当選。しかし、残念ながら愛媛選挙区推薦候補の高見知佳氏については健康な状態でも当選には至らない結果となった。

今回の選挙結果を真摯に受け止めるとともに、あらためて政治活動の意義や参画意識の浸透・醸成すべく組織内で議論を深め、JR連合・JR四国労組が抱える政策課題、組織課題の解決に向けて取り組んでいく。

【比例区推薦候補】  
◎川合 孝典 当選  
(国民民主党・U-Aセンセン出身・現職)

【愛媛選挙区推薦候補】  
高見 知佳 次点  
(無所属・新人)



見事当選した川合氏 (写真左)

## 夏季手当・夏季賞与 交渉妥結

JR四国労組は、5月16日に申第15、16、17号にてJR四国に対し「夏季手当の要求等」を申し入れた。

6月1日に行なった1回目の交渉にて組合は「会社が掲げる目標達成には、組合員が将来に向けて高い意欲を持って働き続けられることが必要不可欠。コロナ禍でも業務量は増えている上に、物価の上昇が家計を逼迫しており、組合員の取り組みを最大限評価すべき」と強く訴えた。これに対し

6月9日の交渉にて「感染症の影響が一巡し、支給額の減少に歯止めがかかるもの、収入が見通せないことや資源価格高による影響等により、支給額の増加幅は限定的と想定する。今後の経営見通し等を客観的・総合的に判断するが、長引くコロナ禍の影響を重く受け止めつつ、直近の収入動向も踏まえながら検討を進めていきたい」とした。組合は引き続き、組合員の日々の奮闘、エキスパートの組合員の会社への貢献

を強く訴え、「目に見える結果」を要請。6月22日の3回目交渉にて、1.35ヵ月、エキスパート組合員の一時金に上乗せる係数の特例0.6との回答を受けた。先行き不透明な状況下での厳しい交渉であったが、組合員の安全や収入確保への取り組みなどを粘り強く訴えた結果、昨年の期末手当より0.14ヵ月分上積みが見られたこと、係数の撤廃はならずも昨年同様特例0.6を死守できたことを確認し、組合員の奮闘を最大限評価した会社の精神一杯の回答と判断し妥結した。(詳しくは、JR四国労組ニュース

【ジェイアール四国バス】  
◆賞与としての支給は  
3年ぶり!!  
0.8ヵ月支給!!

JR四国労組は、ジェイアール四国バスとの夏季賞与に係る団体交渉を6月10日、22日に実施。1回目の交渉では、「2年にわたり賞与として支払われていない。労使一丸となり黒字達成に向けて取り組むにあたり、我慢を重ねてきた組合員の労苦に報いるべき」と強く要請。これに対し会社は「要求の主旨は理解するが、原油高騰やビジネス需要の減少など、不安は一掃されていない。資金繰り等も勘案しながら判断する」との考えを示した。粘り強く交渉を継続し、賞与に対する組合員の期待感の高さを強く訴え続け迎えた2回目の

交渉では、会社より3年ぶりの夏季賞与となる0.8ヵ月の回答が示された。組合は、コロナ禍の影響により経営危機の渦中にあるが、「安全・安心輸送」の提供を第一義に、労使一体となって取り組んできたことを会社が評価し、4年ぶりの黒字決算を目指す中、3年ぶりに『賞与』が支払われることが組合員のモチベーションの維持・高揚につながることを確認。会社としての精一杯の回答であると判断し妥結した。(詳しくは、JR四国労組自動車支部ニュースNo.13、14を参照)

# 安全の取り組みを推進!!

◆JR連合  
安全シンポジウム  
◆JR四国連合  
安全デイスカッション  
◆JR四国労組  
安全推進委員会

## 【JR連合】安全シンポジウム開催



産別・単組の枠を超えて安全への決意を共有

5月12日(木)、岡山市内にてJR連合「第12回安全シンポジウム」が開催された。感染症対策が徹底された会場には、JR連合加盟単組をはじめ、連盟加盟産別や交連労協からオンライン視聴者を含め約300名が参加。基調講演、加盟単組・エリア連合の取り組み報告、パネルディスカッションの3部構成となった本シンポジウムでは、JR各社で実施されている業務改革や効率化施策、そして新技術の導入について現状と課題等を取り上げた。

参加者は、社会が変容していく中で安全の担保にはどういった取り組みが必要か、働く者の目線から主体的な検証が必要であること、職場におけるコミュニケーションの重要性について再認識し、安全・安心な職場づくりとJR産業の持続的な成長を果たす決意を共有した。

## 【JR四国連合】安全デイスカッションを愛媛で開催!



連携して安全強化を推進

JR四国連合は、5月19日に愛媛県伊予市内において、JR連合との安全デイスカッションを開催した。

当日はJR連合、JR四国労組、ジェイアール四国メンテナンクス労組より役員が参加。冒頭2021年度におけるJR四国グループでの労働災害の発生状況や業務上傷害事故の概要等について経過報告を行った。その後、労使双方の安全活動に対する取り組みや関係会社とのつながり、社員間・労使間でのコミュニケーションなどについて議論し、安全の確保のために妥協なく取り組む考えを共有した。

また、安全衛生委員会の活性化に向けた意見交換も実施。労働側委員の参加・育成が喫緊の課題であり、委員会討議の充実を図るため、適宜教育活動を行う必要があるとの知見を得た。

当日は松山車両基地構内の視察も実施。同基地では、昨年9月に傷害事故が発生。JR四国労組より再三警鐘を鳴らし続けていたものの、今般の事故を受け、会社への申し入れを経て地上から列車への昇降段が新設された。昇降段の設置状況や、安全通路の移設等について現地の状況を確認した。

JR四国連合では、引き続き「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の完遂を目指し、安全へのチェック機能の強化を図る。

## 【JR四国労組】安全推進委員会開催



システムを越えて熱く議論

7月1日(金)16時より、本部にて安全推進委員会を開催した。冒頭、中野安全推進委員長より「安全はすべてに優先する最重要課題。安全の確保に向けてしっかりと議論していく」との挨拶があった。議事では、安全・事故防止に関する経営協議会での議論や職場環境改善、JR連合の安全に向けた取り組みについて報告があった。その後、2022年度の安全に向けた取り組みについて議論。設備の増設・削減に関して各系統の視点で意見が出たほか、松山運転所車両基地の現状について情報共有を図った。また、非鉄道事業の拡大に伴い、建設現場の管理業務が発生していることなど、活発な議論によりシステムを越えて安全意識醸成の必要性を確認した。

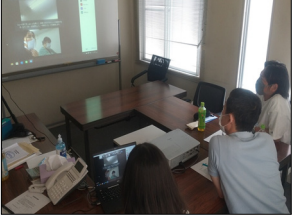
## 出向組合員対話集会

香川支部では、6月8日(水)、24日(金)、徳島支部では7月4日(月)、自動車支部では6月13日(月)にそれぞれ支部主催の出向組合員対話集会を開催。支部執行部に加え、本部からも担当役員が出席した。

香川支部では高松・多度津地区で開催。出向期間に関する質問や技術継承に関する問題点の指摘があったほか、本体と出向先との労働条件の差、出向先での要員不足に関する危機感が示された。

また、自動車支部では4県に設けた会場をZoomでつなぎ、本部・支部・分会の各役員も参加。出向者のみでの意見交換の時間も設けるなど、情報等を共有する有意義な機会となった。

集会で出された課題や問題点に関する意見は集約・精査し、より働きやすい職場環境づくり実現のため、今後の団体交渉や経営協議会等を通じて反映させていく。



出向者と情報を共有

## JR四国労組 議員団会議開催

6月29日(水)16時より本部1階会議室にて、JR四国労組議員団会議第31回総会を開催された。冒頭、山本悟史団長(香川県議)より挨拶を受け、議事では、江淵土佐生氏が2022年4月の任期満了をもって土佐市議を勇退されたことが報告されたほか、この間の経過報告、会計報告、会計監査報告を確認。今年度の取り組みについて説明がなされたあと、出席者は昨年の衆議院議員選挙の振り返りや参議院議員選挙における活動等について情報共有。

役員改選では、新たに幹事長に橋本敏男氏(高知県議)を選出。JR四国労組は今後も議員団会議との連携を密にし、様々な政策課題の解決に向けて取り組んでいく。

【新役員体制】  
団長 山本 悟史 (香川県議)  
幹事長 橋本 敏男 (高知県議)

期満了をもって土佐市議を勇退されたことが報告されたほか、この間の経過報告、会計報告、会計監査報告を確認。今年度の取り組みについて説明がなされたあと、出席者は昨年の衆議院議員選挙の振り返りや参議院議員選挙における活動等について情報共有。

役員改選では、新たに幹事長に橋本敏男氏(高知県議)を選出。JR四国労組は今後も議員団会議との連携を密にし、様々な政策課題の解決に向けて取り組んでいく。

【新役員体制】  
団長 山本 悟史 (香川県議)  
幹事長 橋本 敏男 (高知県議)



橋本幹事長(左) 山本団長(右)

## 乗務員共済運営委員会



健全な運営を確認

7月1日(金)15時15分より本部1階会議室にて、乗務員共済運営委員会を開催した。

冒頭、武智乗務員共済運営委員長から「JR四国労組の独自共済である乗務員共済がより良い仕組みとなるよう積極的な議論をお願いしたい」と挨拶し、議事に入った。

議事では、決算報告、給付実績及び加入状況について確認するとともに、今年度の財政や今後のあり方について協議を行った後、承認された。

【乗務員共済とは】  
列車乗務員、動力車乗務員、自動車乗務員及び業務用自動車運転者として従事する組合員・準組合員が加入できる共済で、掛け金は月額100円。共済制度の詳細や加入については、所属分会またはJR四国労組本部までお問い合わせください。

組みとなるよう積極的な議論をお願いしたい」と挨拶し、議事に入った。

議事では、決算報告、給付実績及び加入状況について確認するとともに、今年度の財政や今後のあり方について協議を行った後、承認された。

【乗務員共済とは】  
列車乗務員、動力車乗務員、自動車乗務員及び業務用自動車運転者として従事する組合員・準組合員が加入できる共済で、掛け金は月額100円。共済制度の詳細や加入については、所属分会またはJR四国労組本部までお問い合わせください。

◆第10回  
6月10日(金)13時30分より、本部1階会議室にて第10回本部執行委員会を開催した。

【経過報告】  
(組織)  
・組織の強化・拡大  
(経営協議会)  
・安全・事故防止  
(JR四国・ジェイアール四国バス)  
・2022年度に実施する旅行業の見直し  
(団交)  
・2022年度夏季手当  
・賞与(JR四国・ジェイアール四国バス)  
(財政)  
・部外監査、部内監査  
(職場対話)  
・高知、香川、本社、徳島  
(教育)  
・ユニオンスクール  
(特設コース)



職場内でのコミュニケーションをテーマに意見交換

◆第11回  
7月8日(金)8時30分より、ホテルクレメント高松にて第11回本部執行委員会を開催した。

【経過】  
・2022年度に実施する旅行業の見直し  
・ダイヤ改正実施後(JR四国)

①参議院議員選挙における推薦候補者の承認について  
②2021年度決算における剰余金の処理について  
③2022年度の財政方針について  
④第41回定期大会  
⑤ダイヤ改正実施後の経営協議会の付議について  
⑥総合労働協約改訂に関する要求項目の集約について  
⑦当面するスケジュールについて  
⑧その他



四国各地より13名が参加

6月23日(木)13時30分より、これまで「フレックシユマンコース」等に参加したことのない入社6年目以降の青女組合員を対象に、「ユニオンスクール「ユースコース」」を本部1階会議室にて開催。13名の参加者は、JR四国労組の取り組みや歴史について、基本的な知識を学んだ上で、団体交渉や経営協議会での議論や署名活動がどういった取り組みかを知り、組合活動への参加意欲を高めた。

## 第12回支部対抗軟式野球大会

快晴に恵まれた5月25日(水)、レクザムボールパーク丸亀にて第12回支部対抗軟式野球大会を開催した。

3年ぶりの開催となった今年大会では、消毒の徹底やプレー中以外でのマスク着用などコロナ対策を徹底。青女組合員を中心に四国4県70名が参加し、「元気がいっぱい」にプレーした。試合は徳島支部の猛打が爆発し、見事初優勝を飾った。



明るく楽しくレクを満喫

◆第11回  
7月8日(金)8時30分より、ホテルクレメント高松にて第11回本部執行委員会を開催した。

【経過】  
・2022年度に実施する旅行業の見直し  
・ダイヤ改正実施後(JR四国)

③第41定期大会

(団交)  
・2022年度夏季手当  
・賞与(JR四国・ジェイアール四国バス)  
(業務)  
・安全推進委員会  
(組織)  
・東京地区集会、大阪地区集会  
・出向組合員対話集会  
(香川、徳島)  
(職場対話)  
・バス高松、徳島、高知  
(政治)  
・JR四国労組第31回議員団会議  
(事業)  
・乗務員共済運営委員会  
(JR連合)  
・第32回定期大会  
・自動車連絡会幹事会  
【議事】  
①2022年度夏季手当・賞与の受給承認について  
②交連共済からこくみん共済coopへの契約移転について  
③第41定期大会